

ドメニコ・ティントレット(ドメニコ・ロブステイ)
《伊東マンショの肖像》(部分)1585年 トリヴルツィオ財団

あの美魔女と踊ったのは、この少年

ピアンカ・カペツロ

遥かなる

Sol Levante nel Rinascimento Italiano
天正遣欧少年使節がたどったイタリア

ルネサンス

2017年
9月21日(木) — 12月3日(日)



TOKYO FUJI ART MUSEUM
東京富士美術館

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1 TEL 042-691-4511
HP | www.fujibi.or.jp Twitter | @tokyofujibi
Facebook | www.facebook.com/fujibi
展覧会特設サイト | www.fujibi.or.jp/harukanaru/

ブロンズイーノ(ピア・デ・メディチの肖像)(部分)1542年頃
ウフィツィ美術館蔵 Antonio Quattrone, Firenze

メディチのプリンセス、初来日

遥かなる

Sol Levante nel Rinascimento Italiano
天正遣欧少年使節がたどったイタリア

ルネサンス

2017年
9月21日(木) — 12月3日(日)



TOKYO FUJI ART MUSEUM
東京富士美術館

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1 TEL 042-691-4511
HP | www.fujibi.or.jp Twitter | @tokyofujibi
Facebook | www.facebook.com/fujibi
展覧会特設サイト | www.fujibi.or.jp/harukanaru/

1582年2月20日(天正十年)、イタリア人のイエズス会巡察師ヴァリニャーノは、日本人自身の中から、ヨーロッパ文明の語り部となる人物を育成する必要があると考え、伊東マンショら4人の少年たちをヨーロッパに送り出しました。1585年3月、イタリアのリヴォルノに上陸した一行は、フィレンツェ、パニャイア、カプラローラなどを経由してローマに至り、教皇に謁見するという旅の大きな目的の一つを果たしました。帰国の旅では、ペーザロ、イモラ、フェッラーラ、ヴェネツィア、パドヴァ、ヴィチエンツァ、ヴェローナ、マントヴァ、ミラノなどの各都市を巡り、行く先々で歓待を受け、さまざまな式典や儀式に参加するなど、その見聞を広めました。

本展では、天正遣欧少年使節の足跡をたどりながら、彼らが訪れたイタリア各地の都市の美術・工芸品を紹介します。ルネサンスの中心フィレンツェからは、メディチ家の人々を描いた絵画や大公の工房で作られた工芸品、一行が狩りを楽しんだパニャイアからは、狩猟の様子を描いたタピスリー、教皇との謁見を果たしたローマからは、教皇グレゴリウス13世の肖像や使節訪問の記念メダル、ペーザロからは物語の描かれた美しい陶器、ヴェネツィアからは世界に冠たるガラス工芸や色彩豊かなヴェネツィア派の絵画など、それぞれの都市に花開いた特色ある作品が展示されます。とくにメディチ家の宮廷画家ブロンズィーノが描いた《ピア・デ・メディチの肖像》と、ヴェネツィアの画家ドメニコ・ティントレットが描き、2014年に奇跡的に再発見された《伊東マンショの肖像》は本展の見どころです。

遣欧使節が日本に帰国したのは出発から約8年半後のことでした。その間に豊臣秀吉によってキリスト教を禁ずる「バテレン追放令」が発令されるなど、彼らを取り巻く環境は大きく変わっており、その後の彼らを受け取る運命は過酷なものでした。しかし、「天正遣欧少年使節」として海を渡った4人の事績は、グローバル化が進む現代において、日本におけるキリスト教の歴史という枠を超えて、異文化間の相互理解という意味で、なお一層の重みをもって私たちの心に訴えかけてきます。本展を通して、4世紀以上も前に彼らが経験した国際交流の旅路を追体験していただくとともに、その当時、彼らが訪問先で目にしたであろう、ルネサンス期のイタリア美術の粋を楽しんでいただければ幸いです。

遥かなるルネサンス展

2017年
9月21日(木) — 12月3日(日)

時間＝10:00～17:00(16:30受付終了)
休館日＝月曜日(ただし10/9は開館、10/10は振替休館)
入場料＝大人1,300(1,000)円/大高生800(700)円/中小生400(300)円/未就学児無料

※()内は前売券、各種割引料金[20名以上の団体・65歳以上の方・当館メルマガ登録者ほか]前売券は12月3日(日)まで販売。
 ↳ ローンチケット(Lコード:34313)、チケットぴあ(Pコード:768-355)にてご購入できます
※土曜日は中小生無料
※誕生日当日にご来館された方はご本人のみ無料[証明書をご提示ください。休館日の場合は適用できません]
※障がい児者、付添人1名は半額[証明書をご提示ください]

主 催＝東京富士美術館、朝日新聞社、NHKプロモーション
特別協力＝イタリア文化財・文化活動・観光省美術館総局、ウフィツィ美術館
後 援＝外務省、イタリア文化財・文化活動・観光省、イタリア大使館、イタリア文化会館、八王子市、八王子市教育委員会
協 力＝NHKエデュケーション、アリタリアーイタリア航空、アルテリア、ヤマトロジスティクス

記念講演会	
「イエズス会の美術戦略 ― 宗教改革と世界伝道 ―」	
講 師：池上英洋（東京造形大学 教授）	「新出《伊東マンショの肖像》を読み解く ― ヤーコポおよびドメニコ・ティントレットの工房との関係から ―」
日 時：9月30日(土) 14:00―15:00	講 師：小佐野重利（東京大学 名誉教授）
場 所：東京富士美術館 ミュージアムシアター	日 時：10月28日(土) 14:00―15:00
申込み：不要。定員200名 ※当日正午より、講演会場入口にて入場整理券を配布(お一人様一枚配布)	場 所：東京富士美術館 ミュージアムシアター
	申込み：不要。定員200名 ※当日正午より、講演会場入口にて入場整理券を配布(お一人様一枚配布)



On February 20, 1582, the first official emissaries from Japan led by Ito Mancio left for Europe. Still in their early teens, these four boys were dispatched by their feudal warlords at the urging of Italian Jesuit missionary Alessandro Valignano (1539-1606), who believed they should serve as raconteurs to share their experience of a dramatically different world with compatriots upon their return.

After traveling through Florence, Bagnai, Caprarola and other thriving communities of the Italian Renaissance, the Japanese delegation finally reached Rome in March 1585. There, they were granted an audience with Pope Gregory XIII, accomplishing a central objective of their mission. They toured even more towns and cities on their trip back to Japan—visiting, among others, Pesaro, Imola, Ferrara, Venice, Padua, Vicenza, Verona, Mantua and Milan—and were welcomed by residents, taking part in numerous local events and broadening their worldview along the way.

This exhibition follows the “Tensho-era boys” through their historic journey while also introducing the master works of Italian art and crafts from the various cities they visited. Included among these are: from Florence, the heartland of the Renaissance, paintings of Florentians and craftworks by studio artists of the House of Medici; from Bagnai, where the Japanese youths were invited to a hunting party, a tapestry depicting scenes from a hunt; from Rome, a portrait of Gregory XII and a commemorative medal of their papal visit; from Pesaro, exquisite earthenware decorated with local myths and tales; and from Venice, examples of the world’s finest glassware and richly-hued paintings of the Venetian school. They are but a small sample of the various art pieces that were unique to and flowered in their localities of that era.

Two of the main highlights of A Monumental Journey are “Portrait of Bia de’ Medici” by Bronzino, a court painter of the Medici, and “Portrait of Ito Mancio” by Venetian artist Domenico Tintoretto, which was discovered in Milan in 2014.

After spending more than eight years abroad, the envoys finally returned to Japan. They would find circumstances markedly different, largely as a result of shogun Toyotomi Hideyoshi’s edict banishing Christian missionaries—and the fate that awaited the young men would be cruel.

Nevertheless, the accomplishments of the Tensho-era boys, who braved both oceans and perils for the sake of a better understanding of the world beyond their own, warrant the highest recognition. Not only for the role they played in the history of Christianity in Japan, but also for the lessons they provide us in this age of globalization, demonstrating the courage, commitment and willingness to learn needed to further exchanges among disparate cultures.

We hope this exhibition serves as an opportunity for viewers to relive the saga of the boys while enjoying the majestic works of Italian Renaissance art, just as the young emissaries had more than four centuries earlier.

Sol Levante nel Rinascimento Italiano
天正遣欧少年使節がたどったイタリア

アクセス	
バス	●JR八王子駅北口 始発から12:29発までは、西東京バス14番のりばより、創価大正門東京富士美術館行き または創価大学循環「創価大正門東京富士美術館」下車。12:31発以降は、西東京バス11番(八日町経由)もしくは12番(ひよどり山トンネル経由)のりばより、創価大正門東京富士美術館行き 創価大学循環「創価大正門東京富士美術館」下車 ●京王八王子駅 西東京バス4番のりばより、創価大正門東京富士美術館行き または創価大学循環「創価大正門東京富士美術館」下車 ●JR拝島駅(1時間1本程度運行) 西東京バス3番のりばより、工学院大学(高月経由)行き「創価大正門東京富士美術館」下車 純心女子学園行き「純心女子学園」下車 ●JR秋川駅(1時間1本程度運行) 西東京バス2番のりばより、京王八王子駅(サマーランド、ひよどり経由)行き「純心女子学園」下車
お車	●中央道八王子インターチェンジ第2出口より八王子市街方面へ進み、国道16号に合流。三つ目の信号(谷野街道入口)を右折、直進し、二つ目の信号(谷野町)を右折。 ●圏央道あきる野インターチェンジ秋留橋を左折し、国道411号線(滝山街道)に合流。国道16号方面(八王子市方面)へ直進(6km)。純心学園前交差点を右折し直進(700m)。



1



3



4



2



5

- 1 ローマの画家(?)《ヨーロッパ内外にセミナリオを設立するグレゴリウス13世》 16世紀末–17世紀初頭 油彩、カンヴァス 192×280 cm グレゴリアン大学
- 2 パオロ・ヴェロネーゼ《息子アンテロスをユピテルに示すヴィーナスとメルクリウス》 1561–65年頃 油彩、カンヴァス 150×243 cm ウフィツィ美術館 Gabinetto Fotografico delle Gallerie degli Uffizi
- 3 テントレット(ヤコボ・ロブスティ)《レダと白鳥》 1550年頃 油彩、カンヴァス 147.5×147.5 cm ウフィツィ美術館 Gabinetto Fotografico delle Gallerie degli Uffizi
- 4 アレッシェンドロ・アッローリの工房《ピアンカ・カペッロの肖像》 1578年以降 油彩、板 95×71 cm ウフィツィ美術館、バラティーナ美術館および王の部屋 Gabinetto Fotografico delle Gallerie degli Uffizi
- 5 《天正遣欧少年使節からヴェネツィア共和国政府への感謝状》 1585年7月2日 墨、インク、紙 31.8×41.7 cm ヴァチカン教皇庁図書館 © by Biblioteca Apostolica Vaticana

関連年表		天正遣欧少年使節のイタリアでの行程地図	
1582	2.20 天正遣欧少年使節、ヴァリニャーノらと共に長崎を出港 3.9 マカオに到着 6.21 本能寺の変、織田信長没		
1583	11.下旬 インド、ゴアに到着 12.20頃 ヴァリニャーノと別れ、ゴアを出発		
1584	8.11 ポルトガル、リスボンに到着 10.20 スペイン、マドリードに到着 11.14 スペイン国王フェリペ2世に謁見		
1585	3.1 イタリア、リヴォルノに到着 3.8 フィレンツェに到着 3.22 ローマに到着 3.23 ヴァチカン宮殿で教皇グレゴリウス13世に謁見 4.10 教皇グレゴリウス13世没 4.25 教皇シクストゥス5世選出 4.26 新教皇となったシクストゥス5世に謁見 6.3 ローマを出発 6.26 ヴェネツィアに到着 6.28 ヴェネツィア共和国統領ニコロ・ダ・ポンテに謁見 7.25 ミラノに到着 8.6 ジェノヴァに到着。豊臣秀吉、関白となる 8.8 ジェノヴァからスペインへ向かい出港 8.16 スペイン、バルセロナに到着 9.14 再びスペイン国王フェリペ2世に謁見 10.初旬 ポルトガルに到着		
1586	4.12頃 リスボンを出港、帰路につく		
1587	5.29 ゴアに到着 7.24 豊臣秀吉による伴天連追放令が出される		
1590	6.23 マカオを出港 7.21 長崎に帰着		
1591	3.3 京都・聚楽第にて豊臣秀吉に謁見		